

## 外務省だより

### 特別展示

# 「外交史料にみるオリンピック」

会期：調整中（現在臨時休館中。緊急事態宣言解除後に開催予定）

会場：外務省外交史料館 別館展示室（東京都港区麻布台 1-5-3）

電話：03-3585-4511

入場料：無料

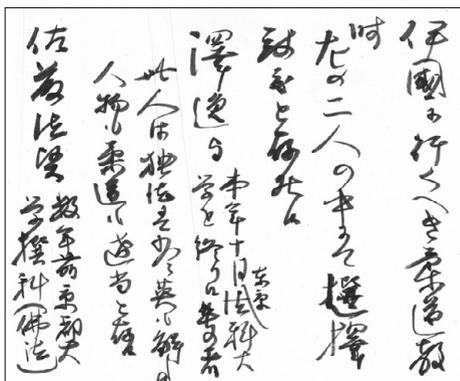
開館時間：10:00～17:30（土日・祝日を除く）

\*外交史料館は緊急事態宣言の発令を受け、臨時休館をしております。再開の時期については、HP等でご確認ください。

外交史料館ホームページ

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/annai/honsho/shiryo/index.html>

今夏、東京でオリンピック、パラリンピックが開催されます。東京でのオリンピックの開催は、戦前期から日本人の夢でした。本展示では、19世紀末に近代オリンピックが開催されるようになって以降の日本とオリンピックとの関わり、特に1964年（昭和39年）に東京でオリンピックが開催されるまでの歴史を、外交史料館所蔵史料を通してご紹介します。本展示により、オリンピック、パラリンピックへの理解が深まることを期待するとともに、スポーツを通じた国際交流、平和構築について考えていただくきっかけとなれば幸いです。



イタリアからの柔道教師  
招聘希望に対する  
嘉納治五郎の書簡  
(1910年)

東京高等師範学校（現在の筑波大学）の校長で、柔道の創始者としても知られる嘉納治五郎（かのう・じごろう）は、1909（明治42）年、日本人初（アジア初）のIOC委員に選出された。嘉納は、スポーツを通して若者の人格を形成し、世界の人々と相互に交流を行うことが、世界の平和と繁栄につながるという信念から、オリンピックの普及や東京大会招致に尽力した。本書簡は、イタリアからの柔道教師招聘の申し出に際し、嘉納が外務省に対して2名の候補者を推薦したものの。



東京パラリンピック  
広報資料（1964年）

東京オリンピック閉幕後に、パラリンピックが開催された。外国人選手の明るく生き生きとした姿は、障害者福祉の重要性を広く伝えることとなった。